

## 改訂版はしがき

本書は、1997年に出版して以来、幸いにも多くの読者を得ることができ、順調に版を重ねてきた。学生だけでなく、地方自治体や企業、住民の方からも、多くの質問メールを寄せていただいた。とりわけ北海道や東北の方々からは、地域再生に向けての熱い思いが綴られてきた。

この間も、日本の地域はグローバル化と大不況のなかで、翻弄されてきたといえる。資本の海外シフトと国内生産体制のリストラによる産業空洞化の進行は、統計史上最悪の完全失業率を更新し続けている。輸入品の急増による地場産業や農林水産業の衰退も甚だしく、住民生活の基盤となる地域産業が大きく後退しつつある。そして全国各地で、自らの地域の再生に向けて、まちづくりやむらづくりの取組みが展開されるようになっている。世界的に見ても、グローバル化の引き起こす矛盾は、2001年9月の米国での同時多発テロ事件に象徴されるように、深刻化しつつある。その後の「戦時体制」への突入と、米国での不況の深化は、日本の不況を一段と悪化させている。その意味で、本書で示した、グローバル化と地域との関係を政治経済学的方法によって分析することの重要性が、これまで以上に増しているといえよう。

改訂版では、初版と同様の視角から、本書の4つの柱である地域経済学、地域経済、地域開発、地方自治と地域づくりをめぐる最新局面がわかるように、できるだけ新しいデータと情報を盛り込むべく、本文はもとより、図表、コラム、参考文献も含め、修正・補足を行っている。

引き続き本書の内容に関して、読者の皆さんから、ご質問、ご意見、ご批判、情報提供等をメールで送っていただければ幸いである。

2001年12月

執筆者を代表して

岡田 知弘